

第3学年「理科」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

成果 ○ 実験や観察等の活動に、興味・関心をもって取り組むことができた。

課題 ▼ 実験結果から自分の考えをまとめ、考察する力が不十分である。

▼ 自然の事物・現象について、差異点や共通点を比較するなどして規則性を見つけることが苦手な児童もいる。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 体験的な学習を通して得た結果から、その後の理科的現象を予想したり、考察したりできる力
- ◇ 自然の事物・現象の差異点や共通点に気付いたり、比較したりする力

具体的な改善策

- ノート指導を充実させ、何についてどんな方法で調べていたのか、また自分の予想はどうだったのかを想起させる。比較や関連付け・理由付けなど、考察の際のポイントも明示する。
- 物事を整理する際、比較することで共通点や差異点を見つける活動を行う。規則性を見つけるため、シンキングツールを使って実験結果を「見える化」する。

達成目標

- 〈物質・エネルギー〉物の性質，風とゴムの力の働き，光と音の性質，磁石の性質及び電気の回路についての理解を図り，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付け、追究する中で，主に差異点や共通点を基に，問題を見いだす力を育成するとともに，主体的に問題解決しようとする態度を養う。
- 〈生命・地球〉身の回りの生物，太陽と地面の様子についての理解を図り，観察，実験などに関する基本的な技能を身に付け、追究する中で，主に差異点や共通点を基に，問題を見いだす力を育成するとともに，生物を愛護する態度や主体的に問題解決しようとする態度を養う。